

3. 調査対象地の選定及び概要

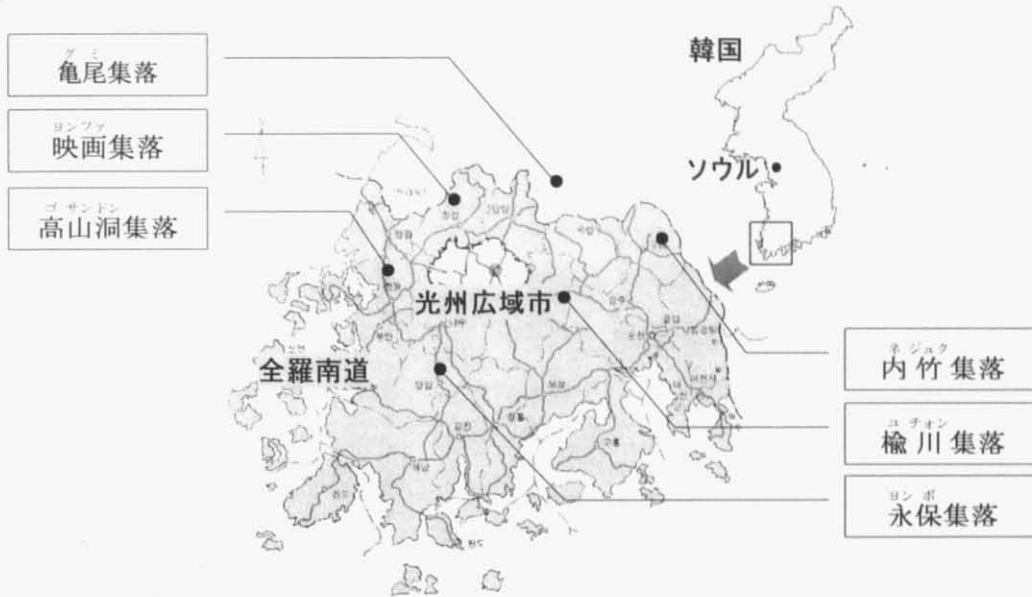


図5 調査対象地の位置

調査対象地は、関連文献と既往の研究資料を基に、韓国農村の特性を良く反映し、韓国農村を代表できる地域として、「風水地理伝統村」、「自然生態優秀村」、「農村観光村」の三つのカテゴリーで各々2カ所の集落を選定した。調査対象地の位置は図5の通りであり、人口、世帯数等は表15の通りである。

表15 調査対象地の現況

区分	集落名	所在地	人口 (人)	世帯数	農家数	農地面積 (ha)	主作物
風水地理的 伝統村	亀尾集落	全北淳昌郡東溪面	267	135	115	107	稲
	内竹集落	全南求礼郡土旨面	106	43	40	65.7	稲
自然生態 優秀村	高山洞集落	全南咸平郡大洞面	59	30	28	33	稲
	楡川集落	全南和順郡同福面	171	78	65	74.1	稲
農村 観光村	永保集落	全南靈岩郡德津面	132	61	56	66.5	稲
	映画集落	全南長城郡北一面	59	25	24	10.6	稲

風水地理伝統村は、昔から自然と人間の調和を取りつつ親環境的な生活を営んだ韓国の伝統集落として、既往の研究又は専門家の調査(李翼成, 2003)によって「明堂²」と

² 風水説で「吉」とする墓地、又は家宅の敷地

された集落のうち、亀尾(グミ)集落と内竹(ネジュク)集落を選定した。

亀尾集落は、全羅北道淳昌郡東溪面に属し、全羅北道の南原から淳昌を結ぶ国道24号線の間ほどにある無量山(586.4m)の南に位置している。2004年現在267名135世帯の住民が暮らしている比較的大きい規模の農村集落である。亀尾集落の名は、漢字の通りに「亀の尾」とうい意味を持っているが、これは昔から集落に靈驗な亀が赤土の中を尾で引いている形の明堂が存在するという亀と関連する昔話が伝えられていて集落の名も亀尾集落と呼ばれるようになったそうである。実際に亀尾集落は、北の無量山山塊が村の北西から北東へ連なっており、集落の南では東から西に川が流れている風水地理的な背山臨水³地域である。さらに亀尾集落は、集落を囲んでいる豊かな自然環境と西に流れたいる「蟾津江」というきれいな風景が見え、集落内には昔からの姿を保存している伝統家屋や石垣等が良く見える。

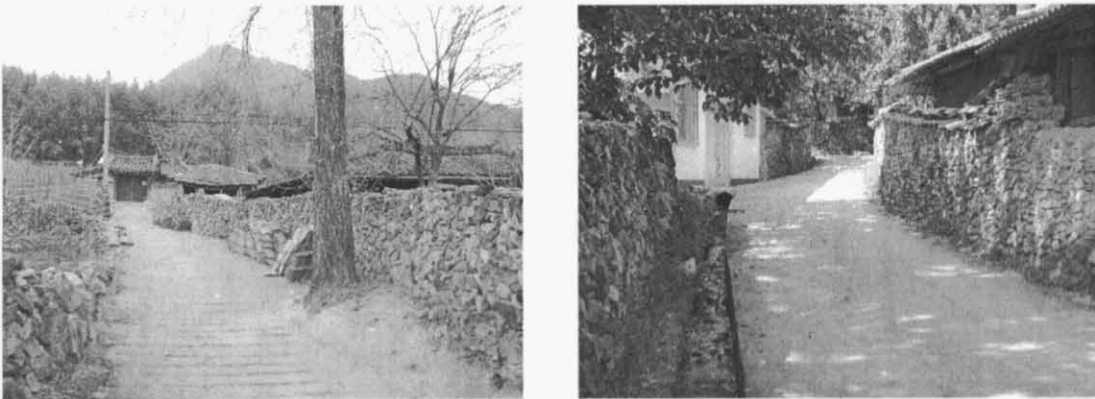


図6 亀尾集落の姿

³ 風水観による村や地域の敷地を決める方法として、山に背を寄せかけて川を眺める地勢

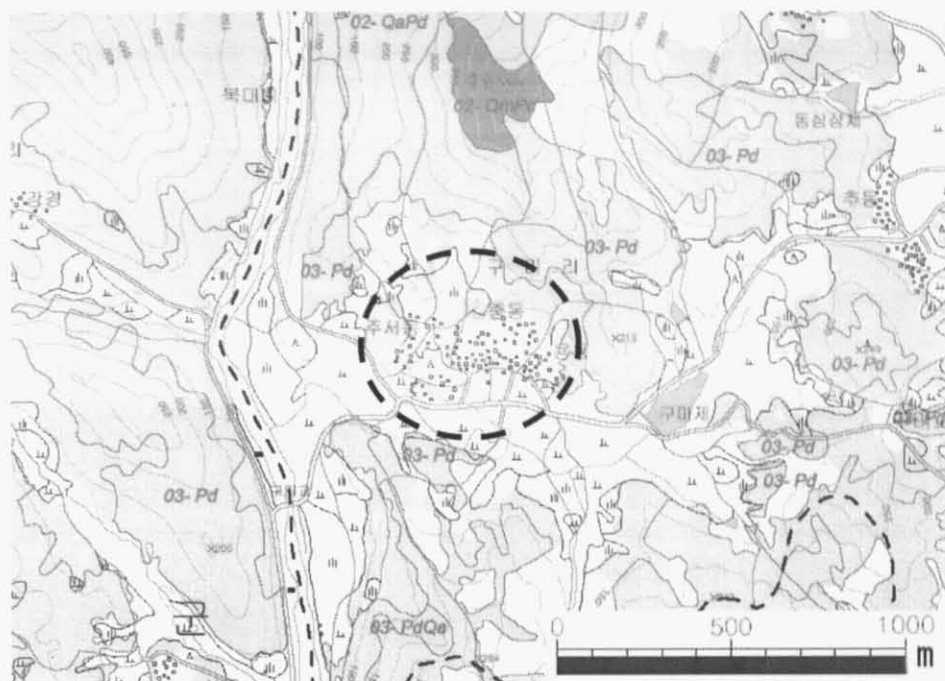


図7 龜尾集落の位置

内竹集落は、全羅南道求禮郡土旨面に属し、求禮—河東間の国道19号線に接している農村集落である。2004年現在106名43世帯の住民が暮らしており、農地面積65.7ha、40農家で構成された比較的に規模が小さい農村集落である。集落の後ろには、国立公園で指定された智異山が位置し、集落の北から南には「徳恩川」という川が集落を包んで流れて集落の南で「蟾津江」と合流している。集落の南には、1,560mの智異山の山脈が蟾津江と会って「九湾杯」という広い豊かな平野を形成しているが、これは背山臨水等による風水地理的な吉地であり、昔から「智異山の良い気運を恵まれた最も住みやすい所」とも良く知られている地域である。

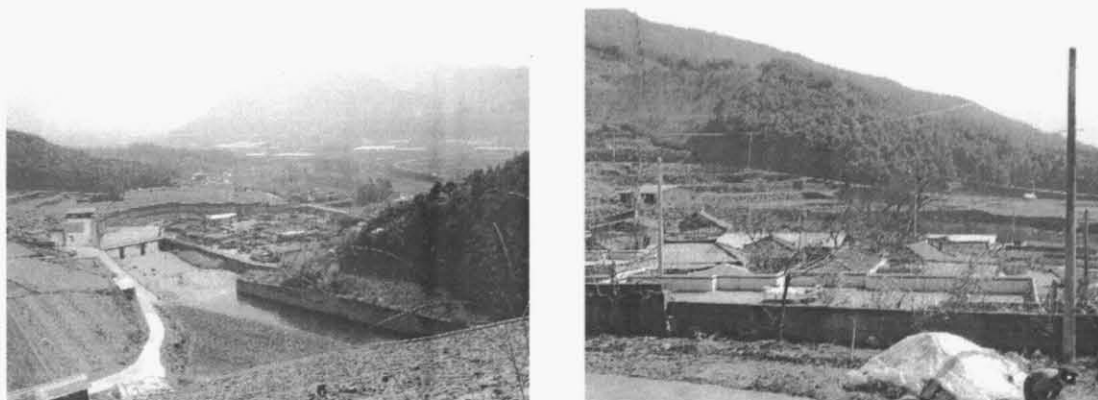


図8 内竹集落の姿



図9 内竹集落の位置

自然生態優秀村は、相対的に優秀な自然環境と生態資源を保有している集落として、韓国の環境部から「自然生態優秀村及び復元優秀事例の選定事業」によって選定(2003年)された自然生態優秀村のうち、高山洞(ゴサンドン)集落と楡川(ユチョン)集落を選定した。

高山洞集落は、全羅南道咸平郡大洞面に属し、2004年現在30世帯59名の住民が暮らしており、農地面積33ha、28農家で構成された農村集落である。高山洞集落は、3面が山で囲まれている良い自然条件を持っており、さらに環境部指定の絶滅危機の野性動物1号で指定された赤コウモリ(学名: *Myotis for mosus chofukusei* Mori)の生態系の保全地域(2002.5.1年指定)として、現在集落の周辺山の五つの洞穴で60余匹の赤コウモリが生息している優秀な自然環境を持っている。集落の中心部は細い川が流れており、集落内には伝統家屋及び土塀等を保っている典型的な農村集落である。そして、高山洞集落は、ワラビおよびドングリ取り、伝統工芸、黄土サウナ等の農村体験プログラムを開発し運営することによって親環境および伝統文化の学習場として活用され、年間150余名の人が訪問している。

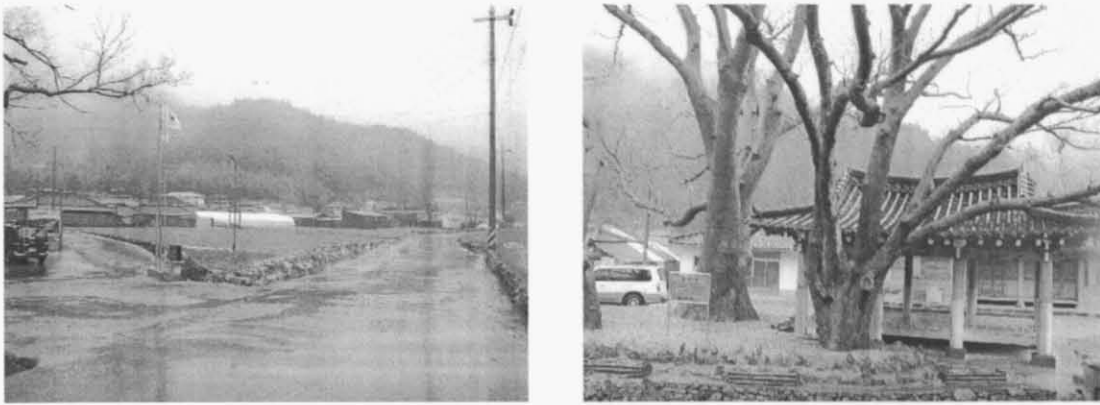


図10 高山洞集落の姿

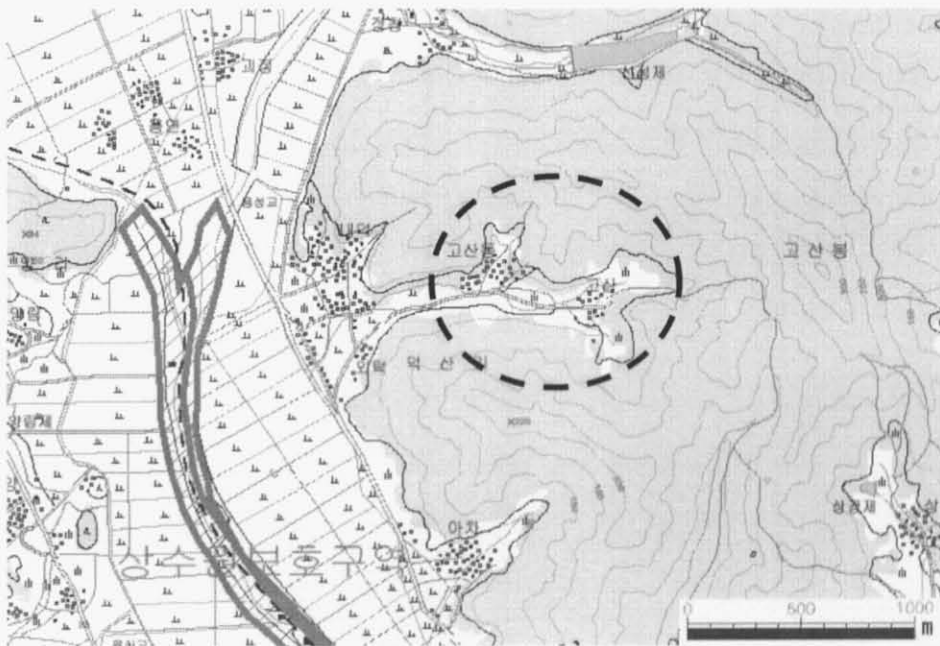


図11 高山洞集落の位置

楡川集落は、全羅南道和順郡同福面に属し、国道22号線に接している集落として、2005年現在78世帯、171名の住民が暮らしている。楡川集落も集落の3面が山で囲まれており、集落内には1,500余mに達する谷が流れ、その谷を沿って樹齢200~300年のケヤキ20余株が生育している豊かな自然環境を保っている。さらに集落周辺には、自然と接することができる登山路や散歩路が揃っており、集落の北にある貯水池には毎年サギやマガモなどの渡り鳥が飛んで来てその保存価値が高くなっている。



図12 楡川集落の姿

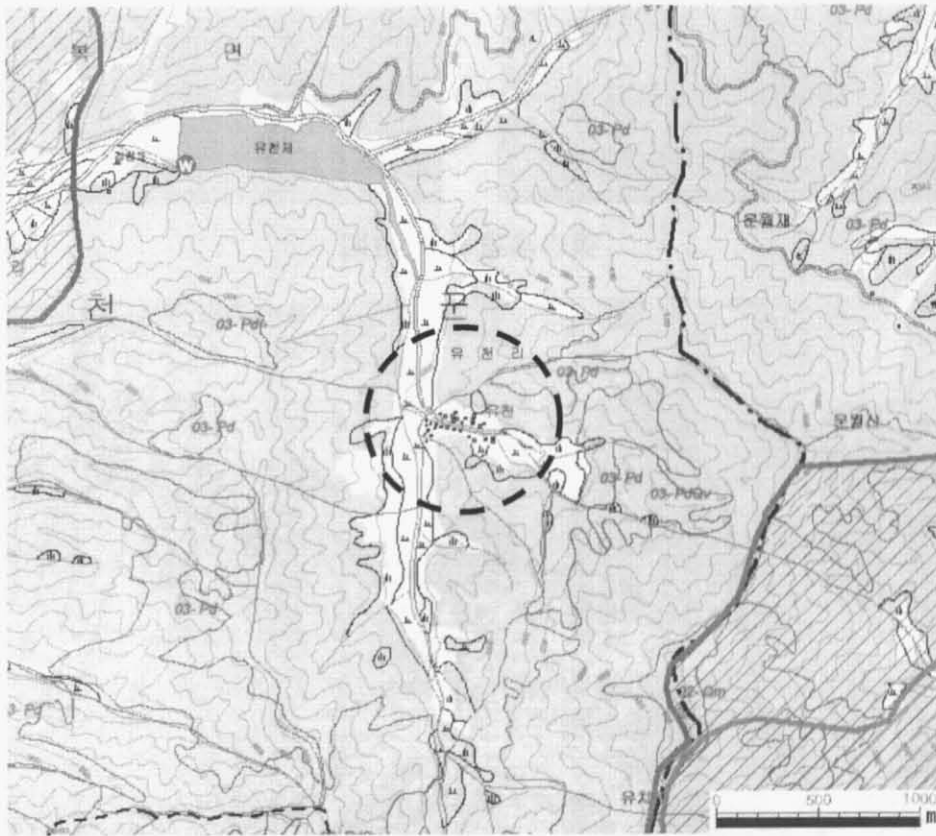


図13 楡川集落のの位置

農村観光村は、韓国農村集落の伝統や共同体意識等の特徴を良く維持させている集落として、韓国の農林部から選定・管理されている「緑の農村体験村」と「農村観光村」のうち、永保(ヨンボ)集落と映画(ヨンファ)集落を選定した。

永保集落は、全羅南道霊岩郡徳津面に属し、霊岩から光州の方の国道13号線の東に位置している。2004年現在61世帯、132名の住民が暮らしており、農地面積66.5ha、56農家で構成されている。集落内には、19世紀に建てられた伝統家屋20余棟を始め重

要な民俗資料が多数保存されており、集落を囲んでいる竹林で形成されている散歩路は映画の背景になったこともある。永保集落は、農林部から「緑の農村体験集落」と指定され、21世帯の農家による季節毎の多様な体験プログラムを揃えており、羅州、木浦、長興などの主要都市から30分、月出山国立公園から7分の距離に位置して周辺観光地との繋がりもある農村観光村である。



図14 永保集落の姿

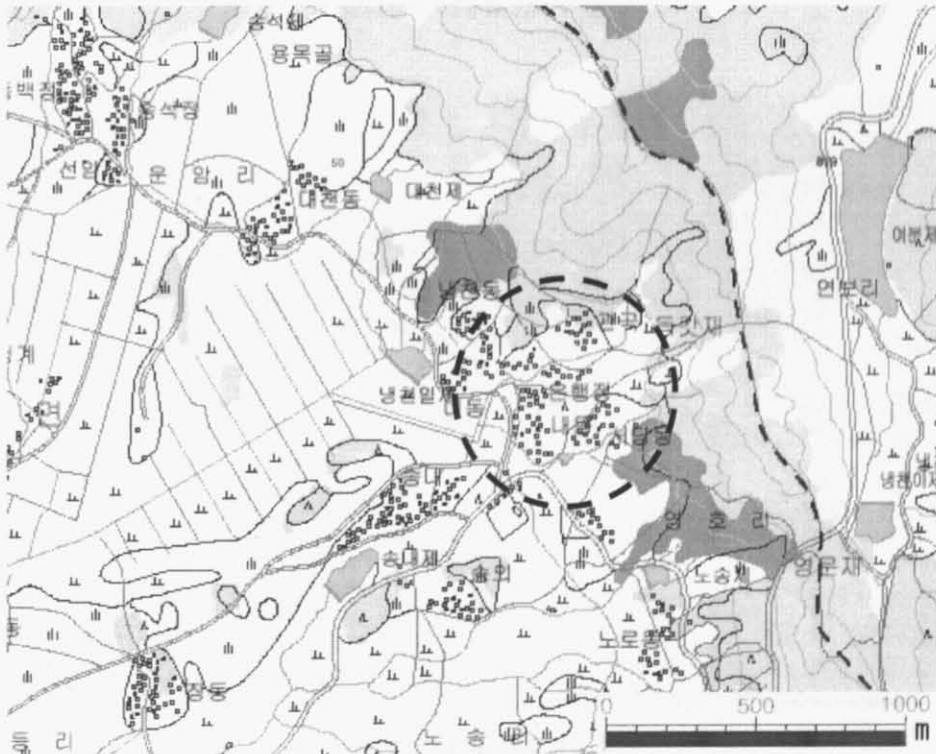


図15 永保集落の位置

映画集落は、全羅南道長城郡北一面に属し、2004年現在25世帯、59名の住民が暮らしており、農地面積10.6ha、24農家で構成されている。集落内には、1950-60年代の

韓国農村の景観をそのまま保っており、そのため多くの映画の舞台にも使われ、集落の名前も映画集落と呼ばれるようになった。映画集落は、1996年から映画・民俗村開発事業が活発に進んでいる。同事業は、隣近休養林と繋がる田園集落の維持、1960年代景観の映画撮影場所の提供、地元住民の所得基盤造成などを目的としており、この事業を通して映画集落は、伝統家屋、黄土サウナ、映画セット場、観光案内施設などの多様な施設及び体験プログラムが開発されている。

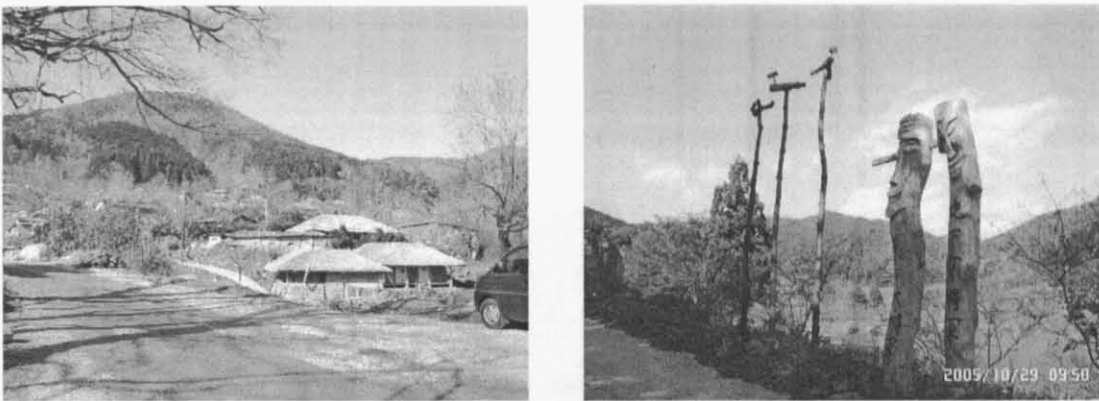


図16 映画集落の姿

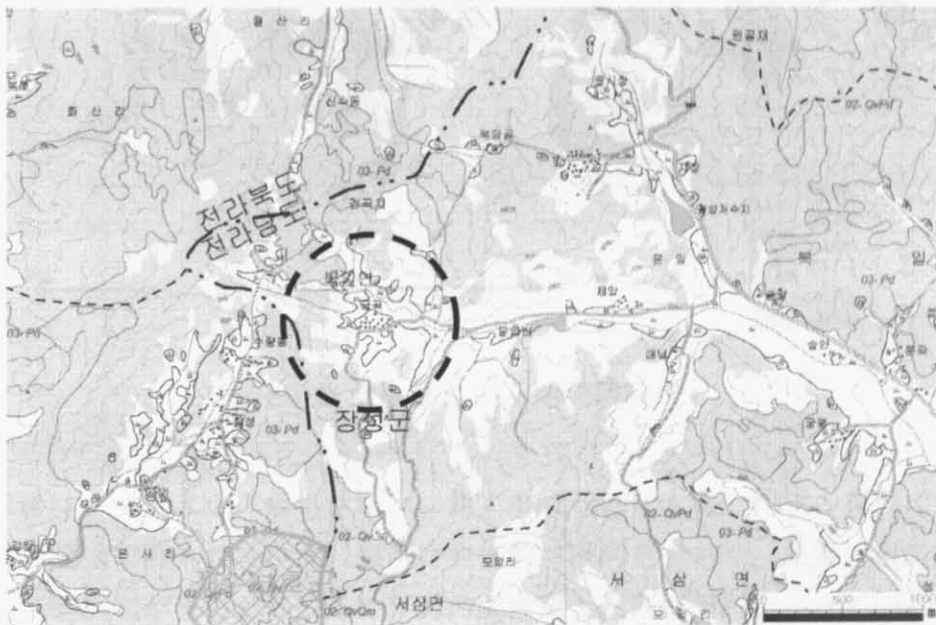


図17 映画集落の位置

4. 現況調査結果

現況調査は、選定した6個所の集落に対して2004年2月24日から2月29日までの6日間、地籍図を用いた現地踏査を通じて、集落の空間構造、土地利用及び整備現況等の調査を行った。調査結果を集落類型別にまとめると次の通りである。

1) 風水地理伝統村

① 亀尾集落

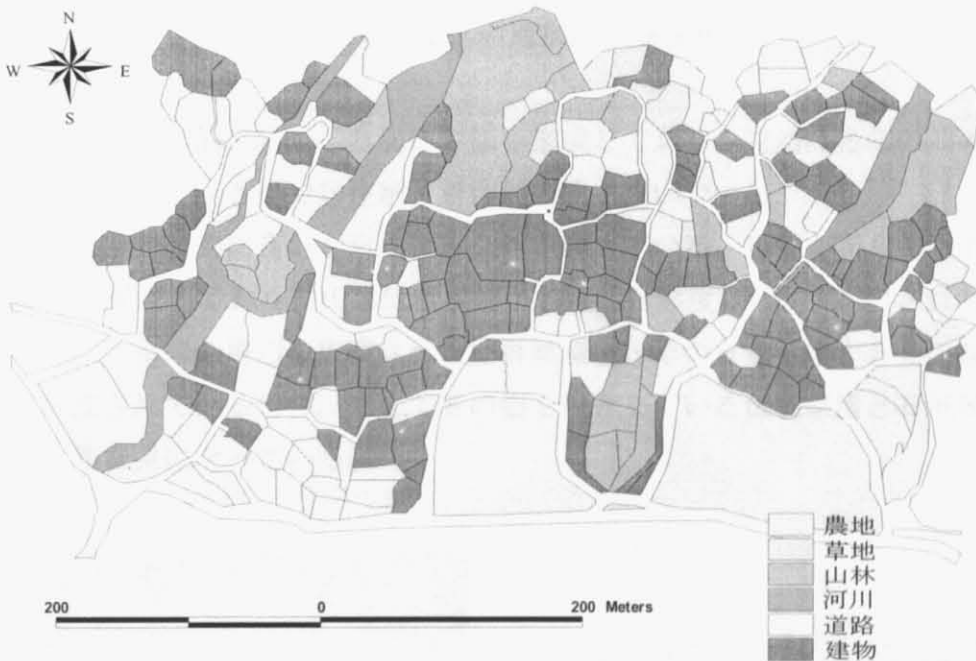


図18 亀尾集落の土地利用現況

亀尾集落は、全羅北道淳昌郡東溪面に属する比較的に大きい規模の集落であり、集落の北は無量山で囲まれている。集落は全体的に南向きであり、集落の南には田んぼによって平野が広がっており、その平野の間は東から西に河川が流れている。それは、風水観による典型的な背山臨水の地形として、集落を囲んでいる北の山は冬の冷たい北西季節風を遮断し、南向きの敷地条件は日照量の確保に有利し、集落の河川は生活用水や農業用水の確保に良い地形条件であると言える。さらに、傾斜地と平地の会うところに位置した亀尾集落の敷地は排水条件が良好し、集落の前の農耕地は耕作に容易い構造であり、こういう農耕地は山から流れ入る有機物質や栄養分の堆積によって

肥沃な土壌の形成ができる。



i) 背山臨水の地形



ii) 豊かな農耕地

図19 亀尾集落の地形及び農耕地

亀尾集落は、全体的に密集した居住形態を形成しており、道路は集落の前の幹線道路から集落の内部に至る形で居住地と耕作地の間を繋いでいる。

亀尾集落は、比較的に良好な自然環境条件を持っている。集落を囲んでいる無量山は、松群落を形成しており、山頂は環境部から生態自然度1等級で調査⁴されたことがある。さらに、集落の周辺の毀損されない自然環境とその自然と接する登山路、集落の所々に形成されている竹林、そして昔の姿を保存している伝統家屋と石垣等は、重要な自然生態資源になっている。



i) 優秀な自然環境



ii) 伝統家屋及び石垣

図20 亀尾集落の自然生態資源

以上のように亀尾集落は、立地と周辺環境、集落の構造及び構成要素等において生

⁴ 韓国環境部，第2次自然環境全国調査，1999，2000，2001

態村の潜在力が高いと判断される。しかし、これまで集落の整備がうまく進まなかったため、居住環境においては相対的に立ち遅れていて、それに対する改善，特に村の景観に阻害要因となる空き家に対する対策が必要である。さらに、その整備において集落が持っている親環境的な要所と特性を必ず考慮して自然環境及び伝統景観の破壊を最小化する計画が求められる。



i) 捨てられた空家



ii) 農村と相応しくない景観

図21 亀尾集落の景観阻害要素

② 内竹集落

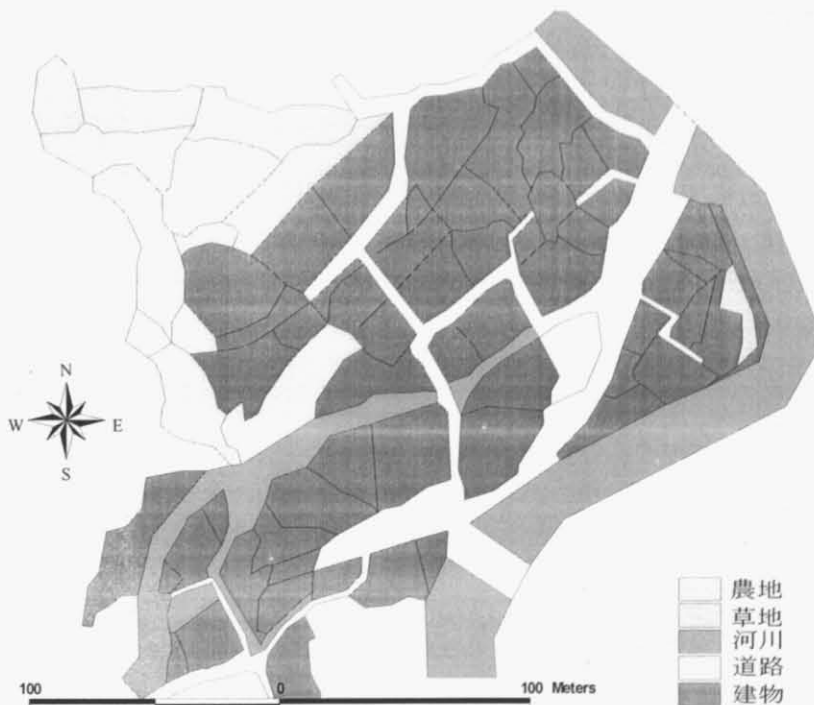


図22 内竹集落の土地利用現況

内竹集落は、全羅南道求禮郡土旨面に属する農村集落として、集落の北には智異山

が位置し、集落の南には「九湾枰」という広い平野が開かれており、その南は蟾津江が流れている風水観による典型的な背山臨水の地形である。集落の北から南には、徳隠川が集落を包みながら九湾枰へ流れ入れて南で蟾津江と合流している。九湾枰は、智異山の山脈が蟾津江とあって形成された沖積平野であり、1,560mの智異山から流れ来る有機物質や栄養分等が長期間堆積して形成することによって、昔から「朝鮮八道で一番肥沃な土地」(李翼成, 2003)と良く知られている。



i) 広い平野(九湾枰)



ii) 集落及び農耕地

図23 内竹集落の地形及び敷地

内竹集落は、林野と河川の間密集した居住形態を成しており、傾斜地と平野があうところに位置して排水条件が良好し、住宅はほとんど東南を向いていて比較的に良好な日照条件を持っている。道路は集落と集落を繋ぐ幹線道路から集落内部道路が繋がる簡単な構造であり、集落の内には河川から流れて集落の南の農耕地まで供給される用水路が通っているが、ほとんど蓋をして住宅用地や道路用地として利用している。一部の蓋をしない用水路は共同洗濯場で活用している。

集落の北の智異山国立公園と西の林野は、環境部から生態自然度1等級で調査されたことがあるが、現在集落と林野の間を通っている道路によって断絶されたことが分かる。しかし、集落の東に流れている徳隠川は比較的に良好な生態環境を保っており、環境部の調査によると多様な魚類と両棲類、爬虫類、哺乳類等が生息していると報告されている。

内竹集落は、良好な自然環境条件を持っている林野地域と河川の用いた計画が必要であり、特に集落を通っている用水路については現在蓋をしているが、それを適切に活用した親水空間として作り直せば、より親環境的な集落の整備ができると判断される。



i) 集落内の道路



ii) 集落内の用水路

図24 内竹集落内の道路及び用水路



i) 林野



ii) 河川

図25 内竹集落内の自然環境条件

2) 自然生態優秀村

① 高山洞集落

高山洞集落は、全羅南道咸平郡大洞面に属し、絶滅危機の野性動物1号である赤コウモリの生態系保全地域で指定(2002. 5. 1)された高山峰の麓に位置している。集落は西を除いた三面が山で囲まれており、集落の中心部には細い川が東から西へ流れている。

高山洞集落は、東から西まで長めの形の集落構造を持っており、道路と居住地の配置も全体的に「一」字に近い形を成している。住宅は、ほとんどが南向きの配置構造を持っており、東と南が山で囲まれているがあまり高くないので日照条件には大きな影響はないことと判断される。集落内の農耕地は、傾斜地を用いた畑作が主になって

おり、集落の入口から西に稲作が行われている。



図26 高山洞集落の土地利用現況

集落内に流れている河川は、集落外の農耕地を通して大洞川に合流しており、その地域は現在上水源保護区域で指定されており、高山洞集落は自体的に下水処理場を保有している。高山洞集落の居住地は全体的に良く整備されており、集落内には伝統家屋及び土塀を保っていて伝統農村集落の雰囲気を感じられる。



i) 農耕地



ii) 居住地

図27 高山洞集落の景観



i) 赤コウモリ



ii) 下水処理施設

図28 高山洞集落の施設

高山洞集落は、現在環境部から自然生態優秀村と指定されており、赤コウモリを初め天然記念物200号であるコウノトリの集団生息が見付かった地域として優秀な自然環境を保有している。さらに、住民の努力によって花道造成等の集落づくり運動と各種の体験プログラム等の開発を推進している。しかし、自然生態優秀村に対して政府の対策は優秀村の指定当時の若干の補助金以外、集落の維持・管理や整備に関する具体的な計画や支援がない実情で、これに対する対策が求められる。



i) 集落案内施設



ii) 黄土サウナ

図29 高山洞集落の観光施設

② 楡川集落

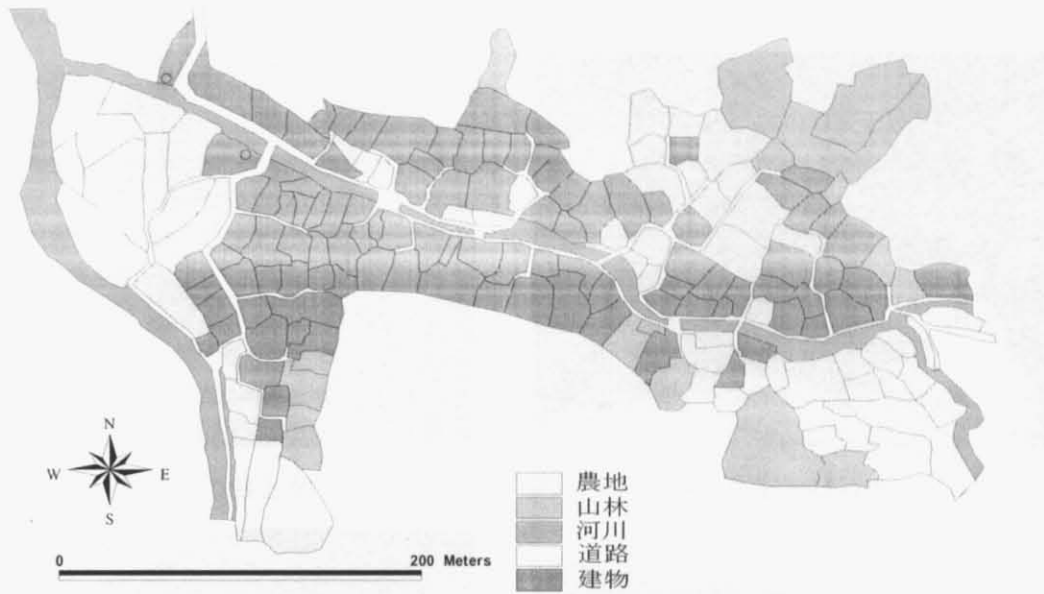


図30 楡川集落の土地利用現況

楡川集落は、全羅南道和順郡同福面に属し、南は母后山で東と北は雲月山で囲まれており、集落の北には楡川貯水池が位置している。平野は南から北へ流れる楡川川の周辺に狭く形成されており、集落内は階段式の農耕地が所々に形成されている。



i) 楡川貯水池



ii) 農耕地

図31 楡川集落の農耕地及び貯水池

集落の中心には、およそ1.5kmに達する谷が流れているが、居住地のほとんどがその谷を中心に集中されており、さらに集落の幹線道路と支線道路も谷を沿って形成されている。集落の向きは全体的に西向きであるが、住宅のほとんどは南向きの構造を

持っており、谷を境界に南の住宅は一部西を向いている住宅も見える。集落の東と南は、山で囲まれていて冬季の日照の確保はやや不利な条件と判断される。



i) 集落内の谷とケヤキ



ii) 住宅及び石垣



iii) 自然河川



iv) 自然環境

図32 楡川集落の自然生態資源

集落内には、昔から伝えて来た石垣1000余mがそのまま保存されており、また谷を沿って樹齢200~300年のケヤキ20余株が生育している。さらに集落の谷と河川は多様な魚類の生息地として、自然河川の姿をそのまま維持している。集落の周辺の山も自然環境が毀損されないまま保存されており、楡川集落は豊かな自然生態資源を多数保持していることがわかる。

以上のように楡川集落は、優秀な生態資源を保有しているが、楡川集落も環境部からの自然生態優秀村の指定当時の支援金を除いた、特別な対策があまりない実情である。楡川集落、河川と住宅等の整備においてもっと親環境的な整備方式の導入と計画的な維持・管理が必要であり、周辺景観と繋いだ集落の開発が求められる。

3) 農村観光村

① 永保集落



図33 永保集落の土地利用現況

永保集落は、全羅南道靈岩郡徳津面に属し、集落の北と東は山で囲まれており、西には農耕地が位置している。集落は全体的に西を向いており、農耕地と居住地の間を通る道路に沿ってほとんどの住宅が密集されている。集落には現在19世紀に建てられた伝統家屋20余棟を初め、重要民俗資料がそのまま保存されており、集落の重要な観光資源になっている。

永保集落は、優秀な自然環境を保有している。集落内のほとんどの居住地は竹林と山と接しており、山林の中にある散歩路や登山路では毀損されない自然をそのまま接することができる。その散歩路を通る集落の東には貯水池が位置しており、それは集落の竹林や山林と共に多様な動植物の生息地としての重要な自然生態資源になっている。

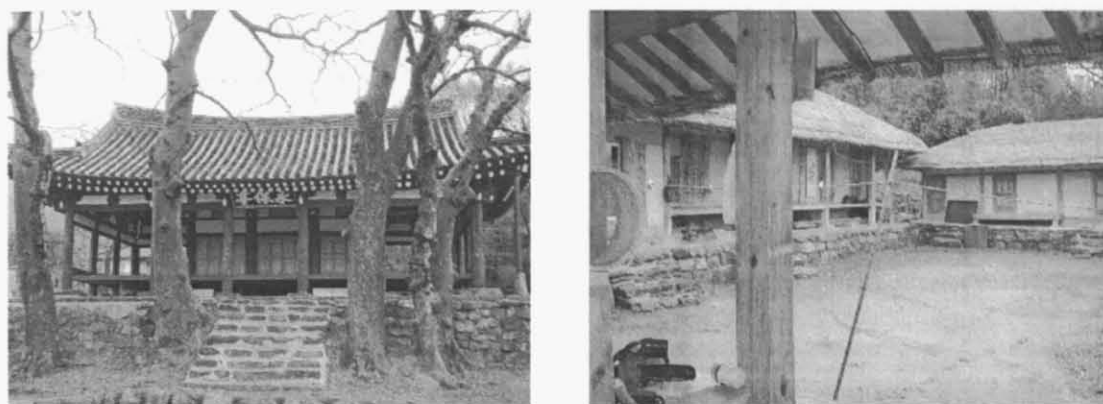
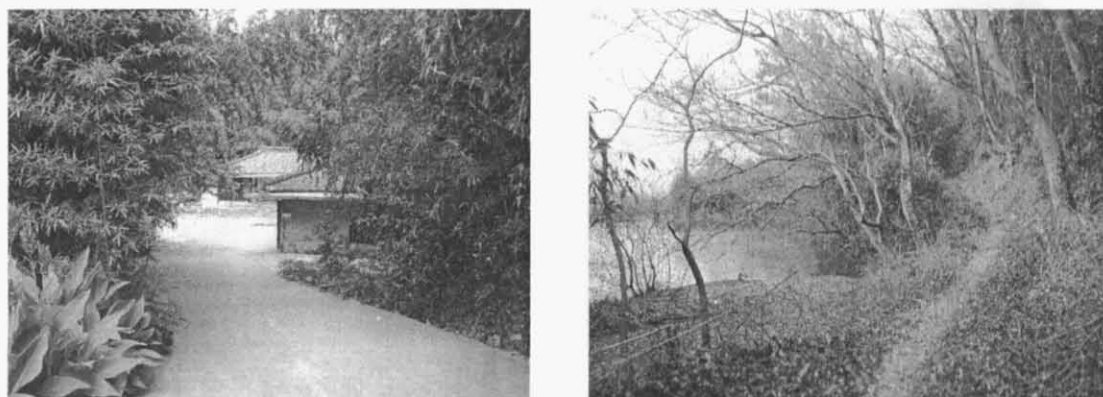


図34 永保集落の伝統家屋及び文化財



i) 住宅及び竹林

ii) 貯水池及び散歩路

図35 永保集落の自然生態資源

永保集落は、2002年「緑の農村体験村」で指定された後、持続的に事業が推進されて来た。集落住民の参加によって季節別に多様な体験プログラムが揃えており、食堂及び農特産物販売所、宿泊施設等を運営している。さらに、毎年5月5日になると故郷と農村を考えるとという意味で「豊郷祭」という祭りが開かれており、この祭りでは集落出身者、外地観光客、集落住民たちが共に楽しめる多様な民俗行事が催されている。

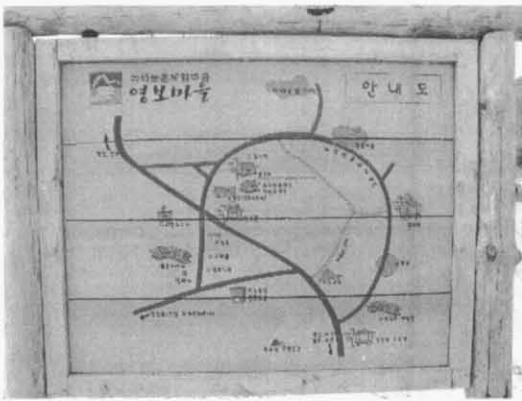
しかし、永保集落の関連事業には色々問題も見付けられる。集落の山林に造成されている散歩路は、前は自然そのままの土と砂利でなっていたが、政府の支援によって無計画的にコンクリート舗装が行われて、毀損されない自然を見るため訪ねてくる人々からの不満が少なくない。さらに、「豊郷祭」の場合は、元々集落住民の自発的な参加による集落の自体行事であったが、霊岩郡が行事を導くようになってから本来の純粋な目的を無くして商業的な行事になってしまう実情である。これは、農村開発においてトップダウン式の計画の大きな問題であり、より広く長期的な見地で住民主導による農村計画及び開発が求められる。



i) コンクリート舗装された散歩路



ii) 竹林



iii) 集落案内施設



iv) 宿泊施設

図36 永保集落の観光資源及び施設

② 映画集落

映画集落は、全羅南道長城郡北一面に属し、1996年から映画・民俗村の開発を目的に「金谷⁵アルムマウル事業」が活発に進んでおり、本事業によって集落の主な土地利用が決まっている。現在、施設物として伝統家屋、黄土サウナ、公共施設、映画セット場等が造成されている。

金谷アルムマウル事業は、開発面積290,000㎡、総事業費97億ウォン(国庫32億、地方費33億、民間資本32億)の規模で、「秀麗な自然景観の保存及び古風の田園集落の維持」、「金谷集落と周辺休養林の連係開発」、「1960年代を基にする映画撮影セットの提供」、「所得事業を通じた地元の住民の定住与件の改選」等を目的に行われている。さらに、本事業は、毀損されない自然環境の用いた生態観光、50~100年前の農村の風景等を体験する緑の農村観光、そして映画・ドラマの撮影地及び集落の祭り等の多様なプログラムを通じた文化観光等の開発戦略を樹立して、乗り物、食べ物、見物等の多様な商品を計画している。

⁵ 金谷アルムマウル事業によって金谷から映画へ集落名が変更

金谷アルムマウル事業の施設配置は、大きく三つの区域に分けて計画されている。まず、1区域は文岩峠の位置する集落の進入部として進入施設地区と水辺休憩施設地区が計画され、2区域は集落から流れ出る河川の位置する平地として案内施設地区、河川生態体験施設地区、映像文化体験施設地区等が計画されている。そして、3区域は集落を囲まれた山地と農地の位置する地域として伝統家屋映画セット場及び体験宿泊施設地区、親環境農業施設地区、伝統集落保存施設地区等が計画されている。全体的な施設配置の計画図は次の図38と通りである。

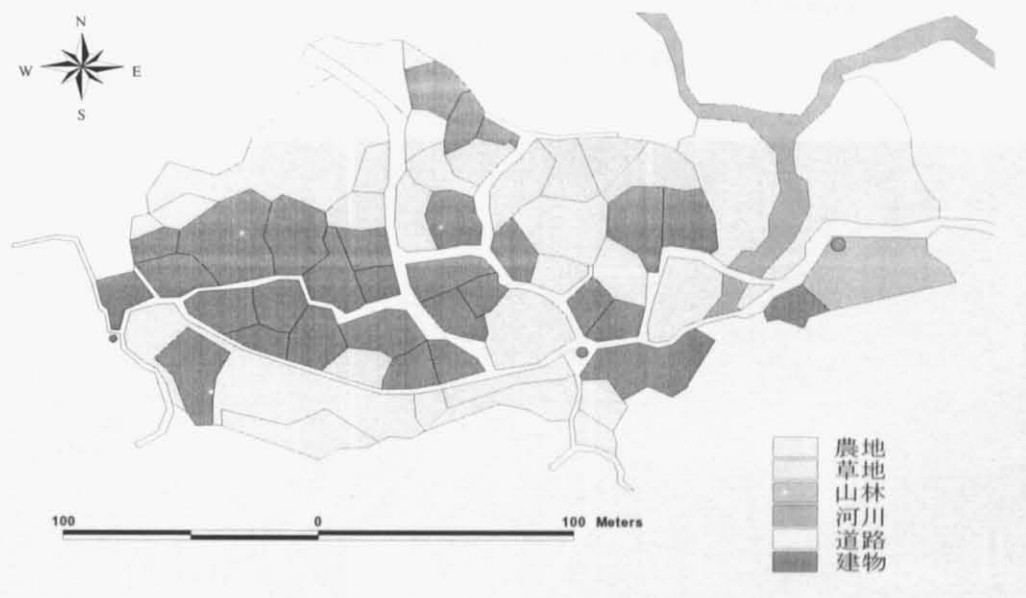
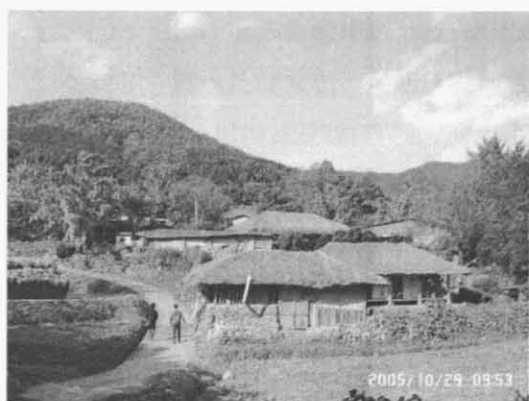
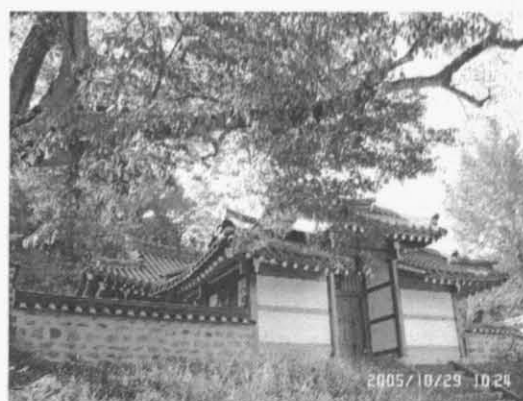


図37 映画集落の土地利用現況



i) 映画セット場



ii) 伝統家屋

図38 映画集落の観光資源

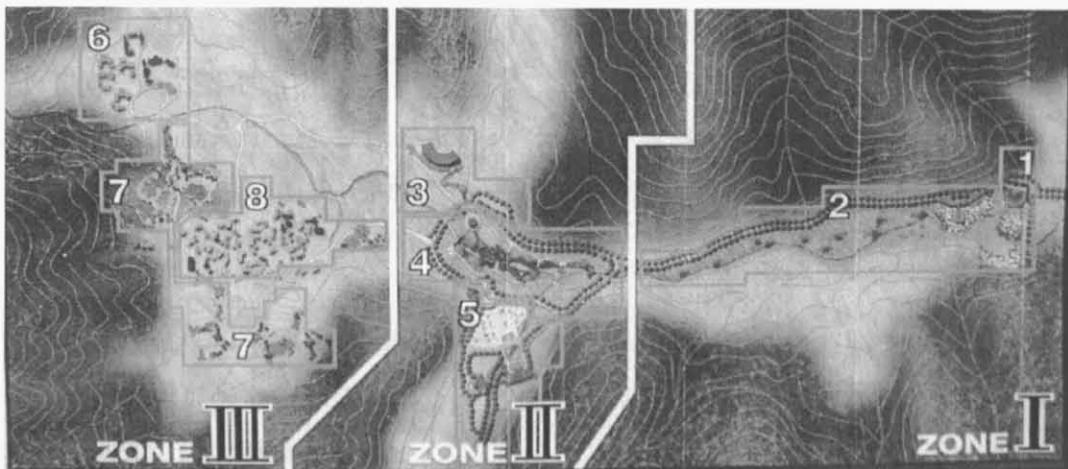


i) 観光案内施設



ii) 宿泊施設

図39 映画集落の観光施設



ZONE I. 進入及び水辺休憩地域

1. 進入施設地区 2. 水辺休憩施設地区

ZONE II. 案内及び文化・生態体験地域

3. 案内施設地区 4. 河川生態体験施設地区 5. 映像文化体験施設地区

ZONE III. 伝統集落保存及び親環境農業地域

6. 伝統家屋映画セット場及び伝統家屋体験宿泊施設地区

7. 親環境農業施設地区 8. 伝統集落保存施設地区

図40 金谷アルムマウル事業の施設配置の計画図

5. 詳細調査結果

詳細調査は、調査対象地のうち、亀尾集落、楡川集落、永保集落を対象に、2004年8月5日から8月10日までの6日間、調査を行った。同調査では、集落の物理的な建造環境、人文社会環境、生産及び自然生態環境、そして親環境集落整備に関する住民意識調査を行った。住民意識調査は、全世帯を対象としたアンケート調査であり、全世帯に配布後、亀尾集落では81部(30.3%)、楡川集落では40部(23.4%)、永保集落では42部(31.8%)を回収した。調査結果は次の通りである。

1) 亀尾集落

① 物理的建造環境

亀尾集落は、前述の通り背山臨水の村である。集落は南を向き、集落の南には水田が広がり、東から西に河川が流れている。集落内のあちこちには今も伝統家屋や石垣、庭園や菜園等の伝統農村の姿が見えるが、一方きちんと整備・管理されていない住宅もある。

住宅種類は半分以上が韓屋⁶の伝統家屋(52%)であり、住宅の材料として、屋根はスレートが37%、瓦が32%、垣は石と土が54%、煉瓦とセメントが25%、庭の材料はセメントが68%、土と庭園が33%で、全体的には木と土が46%、煉瓦とコンクリートが46%であった。つまり、木と土等で建てられた伝統住宅の数がだんだん減っていることが分かる。

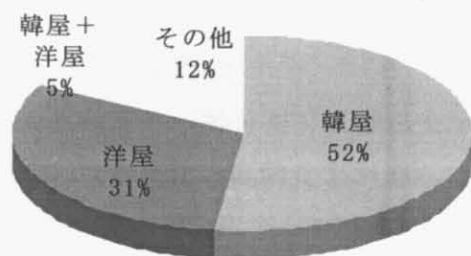


図41 亀尾集落の住宅種類

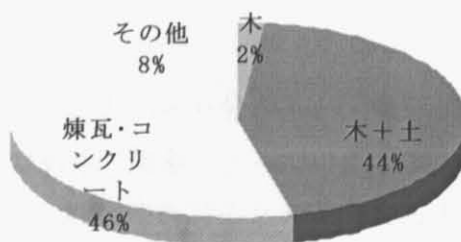


図42 亀尾集落の住宅材料

住宅向きは、ほとんどが南向き(88%)であり、一部は西向(6%)きになっていて、比較的良好的な日照条件を持っている。トイレは、61%の住宅が水洗式トイレを使って

⁶ 韓屋：韓国式の家屋

おり、汲み取り式トイレを使っている住宅も36%が残っている。

家庭の暖房・炊事燃料としては、ほとんどの住宅が石油(62%)とガス(21%)等の化石燃料を利用している。主な上水源は地下水(96%)であり、下水処理においてはほとんどの住宅(51%)が家庭汚廃水を浄化なし河川に放流していることと調査された。

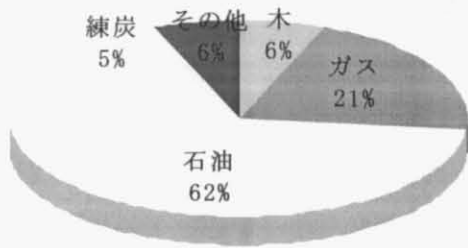


図43 亀尾集落の暖房・炊事燃料

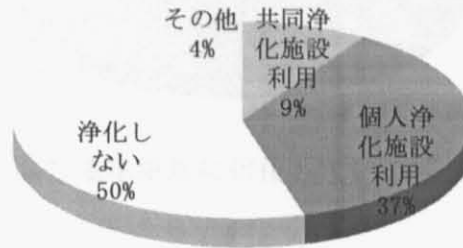


図44 亀尾集落の下水処理方法



i) 自然材料を利用した伝統住宅

ii) 煉瓦・コンクリートを利用した住宅

図45 亀尾集落の住宅現況

② 人文社会環境

調査対象者の年齢分布で60歳以上が67%を示したことから分かるが、亀尾集落は現在深刻な過疎化と高齢化とが進んでいる実情である。集落に住んでいる家族の構成員数としては、2人以下が78%、3人以上が27%で、就業や教育のため若者たちのほとんどが他地域への移住していることと調査された。

集落住民の主収入源としては、稲作農業が43%で一番多かったが、農業収入だけでは十分な収入は得られない実情で、経済的な生活水準が良くない農家が多かった。

集落の組織としては、婦人会、老人会、プンアッシ⁷等が維持されており、集落行事としては、毎年敬老宴会が催されている。しかし、若者層の減少によって、青年会、

⁷ プンアッシ：互いに労力を提供し合って助け合う韓国伝統の組織

當山祭⁸、農樂⁹等の集落組織及び行事が無くなったのが分かった。

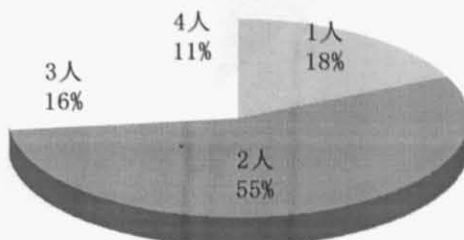
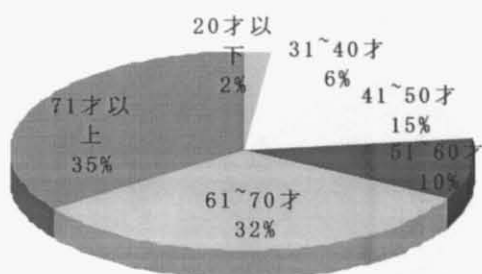


図46 亀尾集落の調査対象者の年齢分布

図47 亀尾集落に居住している家族数



図48 経済的に劣悪な亀尾集落の一部農家

③ 生産及び自然生態環境

農地は1999年までに耕地整理が終わっており、用排水路は全てコンクリート構造物になっている。農業生産方式としては、一般農法で行っている農家が79%、有機と一般農法を平行している農家が6%であることと調査され、ほとんどの農家が農薬と化学肥料を使用する一般農法で農業生産を行っていることが分かる。

集落に生息している野生動物は、猪、穴熊、雉、兎、山猫等がいるが、環境汚染や不法乱獲によって狐、狼、虎、蛍、蛇等が絶滅されたことと調査された。さらに平野部の河川の自然環境は、化学肥料や農薬の使用、生活排水等の原因でかなり悪化している実情である。

⁸ 當山祭：韓国の一部地方で行われる村の祭祀

⁹ 農樂：韓国の農民たちが働きながら奏する音楽



図49 亀尾集落の農業構造物

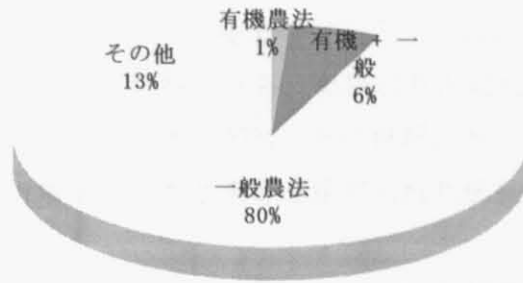


図50 亀尾集落の農業生産方式

④ 住民意識

集落住民は、集落の開発や整備に関して87%が必要と考えており、その必要な集落開発及び整備分野としては、住宅及び公共施設等の居住環境分野の整備(43%)、経済的な安定のための所得雇用分野の整備(27%)、保健医療及び文化・福祉分野の整備(9%)を挙げた。しかし、集落の山や河川等の自然環境が過去よりかなり破壊されたと答え、親環境集落整備についても98%の住民が賛成したが、費用負担がある場合には反対が過半数の56%となっている。

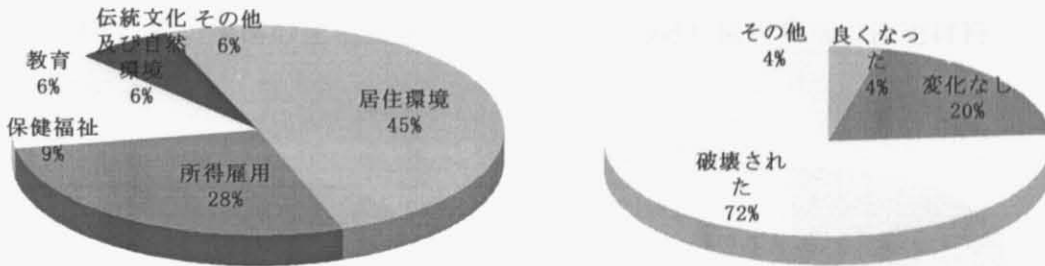


図51 亀尾集落の住民意識(左：必要な整備分野，右：集落自然環境の変化)

2) 楡川集落

① 物理的建造環境

楡川集落は、南は母后山に、東から北は雲月山に囲まれており、居住地域は楡川川の周辺に固まって形成されている。集落の中心から東の山間部にかけて、およそ1.5kmの溪谷があり、居住地と道路はその谷に沿っている。集落は全体的に西を向いてい

るが、住宅地のほとんどは南向き(62%)である。しかし、集落の東と南が山で囲まれていることから冬季の日照の確保には不利である。

集落の住宅種類は、56%が韓屋、38%が洋屋¹⁰であり、住宅の材料としては、木と土が59%、煉瓦とコンクリートが41%である。住宅材料のうち、屋根は瓦が42%、コンクリートが32%、垣は煉瓦とセメントが55%、石と土が37%、庭の材料はセメントが51%、土と庭園が29%になっている。楡川集落も、木と土等で建てられた伝統住宅の数がだんだん減っている実情である。

住宅のトイレは、52%の半分以上がまだ汲み取り式を使っているが、住宅整備によって水洗式トイレが増えている。住宅の暖房と炊事燃料は、石油が66%、ガスが16%で化石燃料が大部分を占めている。下水処理については、55%の農家が浄化なし河川に放流している状況であり、ゴミ処理については、分離回収後集落共同処理が17%にとどまり、ほとんどの農家が焼却している。

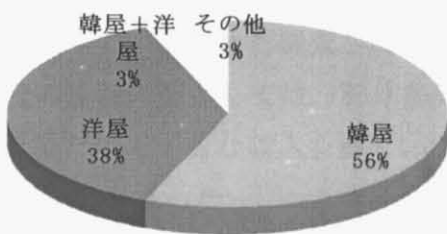


図52 楡川集落の住宅種類

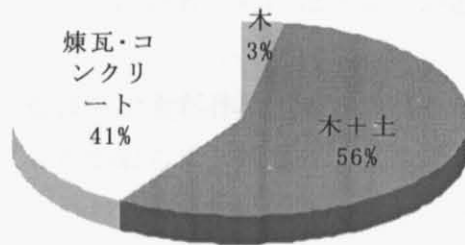


図53 楡川集落の住宅材料

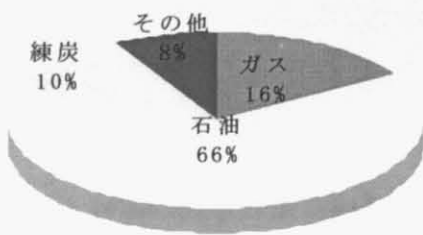


図54 楡川集落の暖房・炊事燃料



図55 楡川集落の下水処理方法

¹⁰ 洋屋：西洋式の家屋

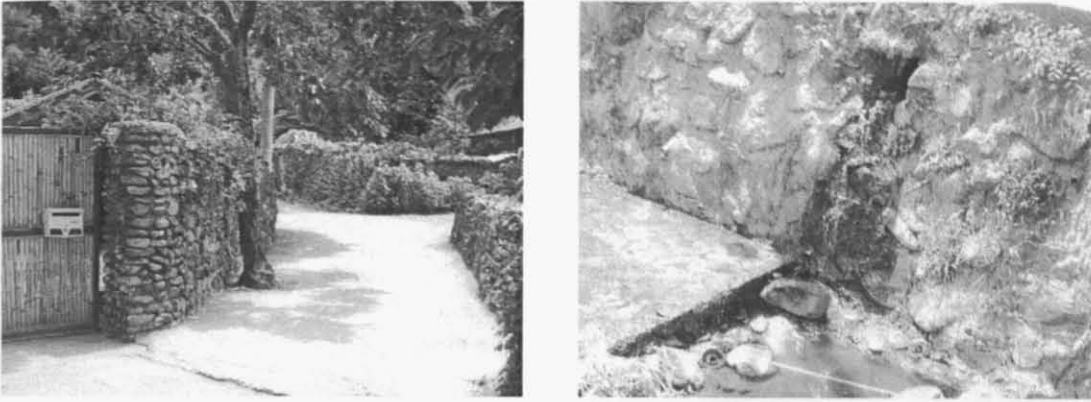


図56 楡川集落の伝統住宅(左)及び河川に放流されている生活污水(右)

② 人文社会環境

現在、楡川集落も現在深刻な過疎化と高齢化とが進んでいる実情で、調査対象者のうち60歳以上が65%を示した。集落に住んでいる家族の構成員数としては、2人以下が93%、3人以上が8%で、楡川集落も就業や教育のため若者たちのほとんどが他地域への移住していることと調査された。

住民の主収入源としては、稲作農業が52%、稲以外の食料作物栽培が26%を示し、農業活動だけで十分な収入を得ていない実情にもかかわらず、農業外活動を通じた所得は4%にとどまった。

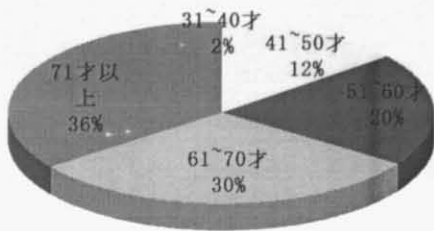


図57 楡川集落の調査対象者の年齢分布

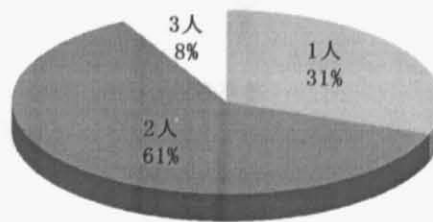


図58 楡川集落に居住している家族数

集落の組織としては、婦人会、老人会等のが組織が維持されているが、集落行事としては、維持されている行事がないことと調査され、昔からの伝統文化及び行事が継承されずに喪失されたことと判断される。

③ 生産及び自然生態環境

集落内には、昔からの石垣1000mあまりがそのまま保存されており、また、谷に沿って樹齢200~300年のケヤキ20余株が生育し、豊かな自然生態環境を保持している。

しかし、集落内の溪流は、生活排水の流入とごみ投棄等から良く管理されていないし、集落の西の平野部の河川は上流の養魚場等によってだんだんに汚染が進んでいる。



図59 楡川集落の谷とケヤキ



図60 汚染が進んでいる楡川集落の河川

農業方式においては、農薬と化学肥料を使用する一般農法が97%を占めている。集落に生息している野生動物としては、猪、栗鼠、雉、狸等がいるが、虎、狼、狐、穴熊、ザリガニ、兎等が環境汚染によってその数が減っている実情である。



図61 楡川集落の農耕地及び自然環境



図62 楡川集落の農業生産方式

④ 住民意識

集落住民たちは、集落の環境に関して64%が前より非常に破壊されたと考えており、環境破壊を防ぐための親環境集落整備の必要性を認識(100%)している。しかし、整備の必要な順番としては、住宅及び公共施設等の居住環境分野の整備(35%)、経済的な安定のための所得雇用分野の整備(28%)、伝統文化及び自然環境保全分野の整備(25%)を求めている。



図63 楡川集落の住民意識(左：必要な整備分野，右：集落自然環境の変化)

3) 永保集落

① 物理的建造環境

永保集落は、集落の北と東が山で囲まれており、西には農耕地が広がっている。集落には19世紀に建てられた伝統家屋20余棟を始め、重要民俗資料がそのまま保存されており、集落の重要な観光資源となっている。

住宅は、韓屋が69%、洋屋が19%を示して、まだ伝統農村景観を保っていることがわかる。住宅材料として、屋根は瓦が69%、コンクリートが17%であり、垣は煉瓦とセメントが45%、植物材料が24%、石と土が19%である。そして、庭の材料としては、セメントが51%、土と庭園が46%を占めている。

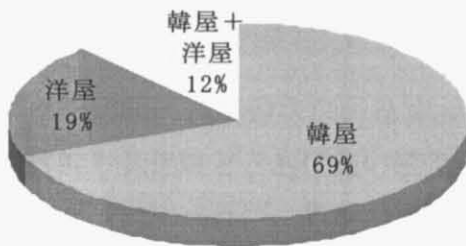


図64 永保集落の住宅種類

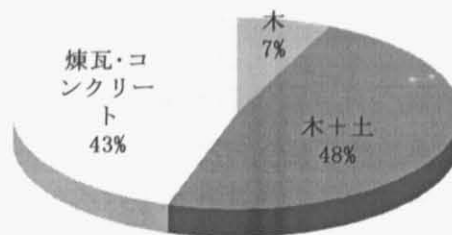


図65 永保集落の住宅材料

住宅の向きは、南向きが60%、西向きが29%で、比較的に良好な日照条件を持っている。トイレは、水洗式が73%、汲み取り式が27%を示して、住宅整備が良く行われていることが分かる。住宅の暖房と炊事燃料は、石油が60%、ガスが31%で化石燃料が大部分を占めており、上水源としては、地下水が64%、上水道が36%を占めている。

下水処理においては、22%の住宅がまだ浄化しなく河川に放流しているが、72%のほとんどの住宅は個人浄化施設を通して浄化している。ゴミ処理については、56%が

集落共同処理をしてあり、44%は焼却している。

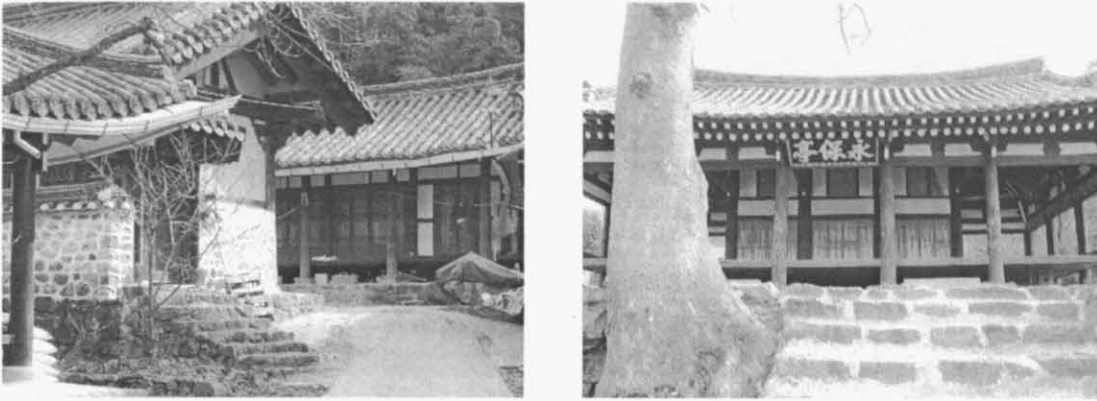


図66 永保集落の伝統住宅及び文化財

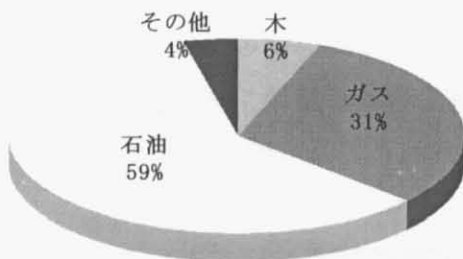


図67 永保集落の暖房・炊事燃料



図68 永保集落の下水処理方法

② 人文社会環境

集落は、比較的整備状況が良く、「豊郷祭」のような集落の行事も良く維持されて、集落内の文化財とともに良い観光資源になっている。しかし、過疎化と高齢化によって、過去に比べれば、集落の共同行事が減っている状況である。永保集落の調査対象者としては、60歳以上が79%を示し、集落に住んでいる家族の構成員においては、2人以下が92%、3人以上が8%を示した。

住民の主収入源としては、稲作農業が56%、稲以外の食料作物栽培が16%を示し、集落の組織として、青長年会、老人会、婦女会等が良く維持されている。しかし、農業機械の普及と青年層の減少によって、プンアッシや農楽等の伝統文化が喪失されている実情である。

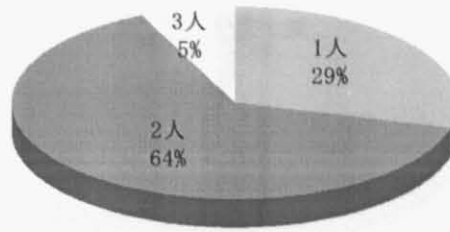
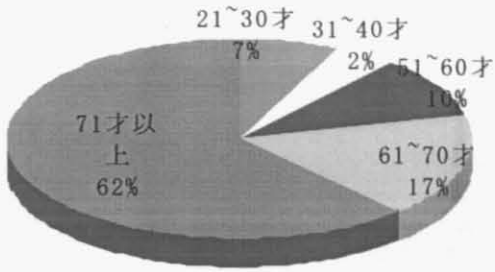


図69 永保集落の調査対象者の年齢分布

図70 永保集落に居住している家族数

③ 生産及び自然生態環境

永保集落は、比較的に良好な自然環境を保持している。里山の間にある散歩路では、破壊されてない自然と接することができるし、その散歩路のすぐ後ろにはため池が位置して、里山と共に多様な動植物の生息地としての空間になっている。

集落には、猪、兎、栗鼠等の野生動物が生息しているが、環境汚染によって狐、狼、烏、穴熊、ザリガニ等が絶滅されたと調査された。



図71 永保集落内の散歩路(左)及びため池(右)

農作物の種類としては、稲、ゴマ、トウガラシ、豆等を栽培しており、ほとんどの農家は農薬と化学肥料を使用する一般農法で農業を行っている。



図72 永保集落の農耕地

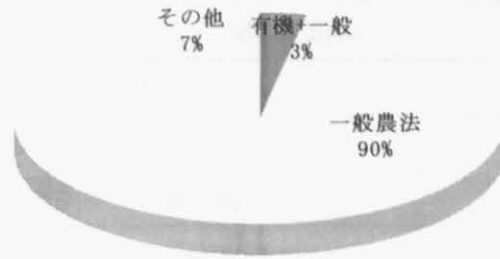


図73 永保集落の農業生産方式

④ 住民意識

住民たちは、集落の自然環境の変化に対して、変化なし54%、非常に破壊された39%を示し、農村の環境破壊に対しても、心配する水準ではない54%、深刻な水準46%を示した。しかし、親環境集落整備については、必要性を認識(100%)しており、最も整備が必要な分野としては、住宅及び公共施設等の居住環境分野の整備(36%)、経済的な安定のための所得雇用分野の整備(21%)を求めている。

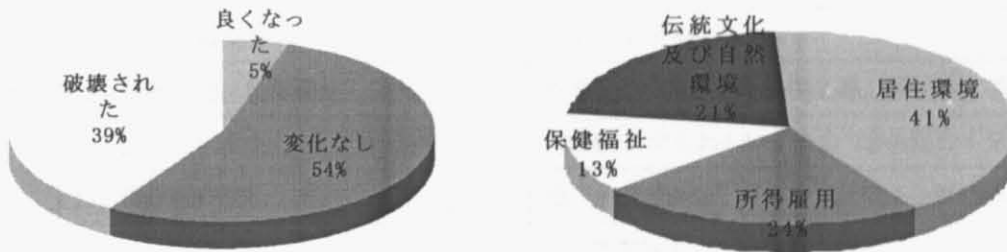


図74 永保集落の住民意識(左：集落自然環境の変化，右：必要な整備分野)

本文中で一部述べた住民意識調査結果を含め、25の調査項目および調査結果の要約を、表16、表17、表18に示した。調査項目1～20は現地調査およびヒアリング調査によるものであり、調査項目21～25はアンケート調査によるものである。

表16 亀尾集落の詳細調査結果

	調査項目	調査結果(%)
物理的 建造 環境	1. 住宅の種類	韓屋(52), 洋屋(31)
	2. 住宅の材料	木・土(46), 煉瓦・コンクリート(46)
	3. 住宅の向き	南向き(88), 西向き(6)
	4. 屋根の材料	スレート(37), 瓦(32)
	5. 垣の材料	石・土(54), 煉瓦・セメント(25)
	6. 庭の材料	セメント(68), 土・庭園(33)
	7. トイレの種類	水洗式(61), 汲み取り式(36)
	8. 暖房・炊事燃料	石油(62), ガス(21)
	9. 上水源	地下水(96)
	10. 下水処理	共同浄化施設利用(9), 個人浄化施設利用(37), 浄化しない(51)
	11. 廃棄物の処理	リサイクル品は分離回収, 他は焼却
人文 社会 環境	12. 主収入源	稲作(43), そのほかの作物(33)
	13. 集落の組織	婦女会, 老人会, プンアッシ
	14. 隠れた組織/原因	青年会/若者層の不足
	15. 伝統文化, 集落祭り, 文化財	敬老宴会, 南原楊氏宗中文書, 列女碑, 保護樹
16. 隠れた伝統文化・文化財/原因	當山祭/わずらわしい, 農楽*/若者層の不足	
生産 及び 自然生 態環境	17. 農作物の種類	稲, トウガラシ, ゴマ, 豆, ウメ, 栗, 柿 等
	18. 生産方式	一般農法(91), 一般+有機農(8)
	19. 生息野生動物	猪, 鹿, 穴熊, 雉, 兎, 栗鼠, 山猫, 狸
	20. 隠れた野生動物/その原因	狐, 狼, 虎, 螢, 蛇 等/環境汚染, 不法乱獲
	(回答者数/対象者数)	81人/267人(30.3)
住民 意識	21. 整備が必要な分野	居住環境分野(43), 所得雇用分野(27), 伝統文化・自然環境保全分野(6)
	22. 農村の環境破壊に関する考え	深刻な水準(81)
	23. 集落の自然環境の変化	非常に破壊された(72)
	24. 親環境集落整備	賛成(98)/反対(2)
	25. 親環境集落整備 (費用負担の場合)	賛成(44)/反対(56)

表17 楡川集落の詳細調査結果

	調査項目	調査結果(%)
物理的 建造 環境	1. 住宅の種類	韓屋(56), 洋屋(38)
	2. 住宅の材料	木・土(59), 煉瓦・コンクリート(41)
	3. 住宅の向き	南向き (62), 西向き (20)
	4. 屋根の材料	瓦 (42), コンクリート (32)
	5. 垣の材料	煉瓦・セメント (55), 石・土 (37)
	6. 庭の材料	セメント (51), 土・庭園 (29)
	7. トイレの種類	汲み取り式 (52), 水洗式 (43)
	8. 暖房・炊事燃料	石油 (66), ガス (16)
	9. 上水源	地下水 (92)
	10. 下水処理	共同浄化施設利用(12), 個人浄化施設利用(32), 浄化しない(55)
	11. 廃棄物の処理	リサイクル品は分離回収, 他は焼却
人文 社会 環境	12. 主収入源	稲作(52), そのほかの作物 (26)
	13. 集落の組織	婦女会, 老人会
	14. 隠れた組織/原因	青年会(若者層の不足)
	15. 伝統文化, 集落祭り, 文化財	保護樹
	16. 隠れた伝統文化・文化財/原因	當山祭/わずらわしい, 若者層の不足
生産 及び 自然生 態環境	17. 農作物の種類	稲, トウガラシ, 豆, ニンニク, サツマイモ 等
	18. 生産方式	一般農法(97), 有機農法(3)
	19. 生息野生動物	猪, 鹿, 栗鼠, 雉, 狸 等
	20. 隠れた野生動物/その原因	虎, 狼, 狐, 穴熊, ザリガニ, 兎 等/環境汚染
	(回答者数/対象者数)	40人/171人(23.4)
住民 意識	21. 整備が必要な分野	居住環境分野(35), 所得雇用分野(28), 伝統文化・自然環境保全分野(25)
	22. 農村の環境破壊に関する考え	深刻な水準(85)
	23. 集落の自然環境の変化	非常に破壊された(64)
	24. 親環境集落整備	賛成(100)
	25. 親環境集落整備 (費用負担の場合)	賛成(32)/反対(68)

表18 永保集落の詳細調査結果

	調査項目	調査結果(%)
物理的 建造 環境	1. 住宅の種類	韓屋(69), 洋屋(19)
	2. 住宅の材料	木・土(55), 煉瓦・コンクリート(43)
	3. 住宅の向き	南向き (60), 西向き (29)
	4. 屋根の材料	瓦 (69), コンクリート (17)
	5. 垣の材料	煉瓦・セメント (45), 植物材料(24), 石・土 (19)
	6. 庭の材料	セメント (51), 土・庭園 (46)
	7. トイレの種類	水洗式 (73), 汲み取り式 (27)
	8. 暖房・炊事燃料	石油 (60), ガス (31)
	9. 上水源	地下水 (64), 上水道(36)
	10. 下水処理	共同浄化施設利用(5), 個人浄化施設利用(72), 浄化しない(22)
	11. 廃棄物の処理	リサイクル品は分離回収, 他は焼却
人文 社会 環境	12. 主収入源	稲作 (56), そのほかの作物(16)
	13. 集落の組織	青長年会, 老人会, 婦女会
	14. 隠れた組織/原因	プンアッシ (農業機械化)
	15. 伝統文化, 集落祭り, 文化財	豊郷祭, 永保亭, 伝統家屋, 保護樹
	16. 隠れた伝統文化・文化財/原因	農楽/若者層の不足
生産 及び 自然生 態環境	17. 農作物の種類	稲, ゴマ, トウガラシ, 豆 等
	18. 生産方式	一般農法(90), 一般+有機農(3)
	19. 生息野生動物	猪, 鹿, 兎, 栗鼠 等
	20. 隠れた野生動物/その原因	狐, 狼, 烏, 穴熊, ザリガニ 等/環境汚染
	(回答者数/対象者数)	42人/132人(31.8)
住民 意識	21. 整備が必要な分野	居住環境分野(36), 所得雇用分野(21), 伝統文化・自然環境保全分野(19)
	22. 農村の環境破壊に関する考え	心配する水準ではない(54), 深刻な水準(46)
	23. 集落の自然環境の変化	変化なし(54), 非常に破壊された(39)
	24. 親環境集落整備	賛成(100)
	25. 親環境集落整備 (費用負担の場合)	賛成(46)/反対(54)